

2

「ひやり・はっと体験」の発表

指導のねらい

交通場面に潜む様々な危険と原因を知り、その原因の排除により事故が避けられることを理解させる。

自転車運転中に、どんな場所で危険な目にあいそうになってひやりとしたり、はっとしたか。体験の交換や集約、発表をすることにより、それぞれの体験に対する原因分析と、その原因を取り除くことによって事故は避けられることを理解させる。

●活動例 学級活動、地域での活動

●指導計画のポイント

実体験をまとめることにより、自転車利用や地域の実態をつかむ。

●事前準備






- ・交通事故事例の収集
- ・発表用模造紙（必要に応じて）
- ・ワークシートを事前に課題として配布しておく、班での検討時間が長くとれる

●連携関係機関

警察署、市役所から事故事例などの情報提供を受ける。

●指導の流れ

【具体的指導内容】（学級活動での使用例）

指導の流れ	留意点／ポイント
教師 ①学習の流れの説明 	・教師の体験や「ひやり・はっと体験」の事例を交えて説明する。
生徒 ②「ひやり・はっと体験」の記入 	・些細なことでも構わないので、自分が体験した「ひやり・はっと体験」を思い出させ、なるべく多くの意見が集まるようにする。 ※ワークシート①の地図はサンプルであるため、地域で最適なものを選んでください。
生徒 ③班分け 	・班ごとに班長（進行役）を決める。
生徒 ④班員（ともだち）の「ひやり・はっと体験」を知り、安全な行動をするための方策について話し合う。 	・班員（ともだち）の体験と自分の体験を対比し事故原因を考えさせる。 ・班員（ともだち）の体験を聞いて、どんな場所が危険で、どんなことに注意すればよいと思うか、感想を記入させる。 ・傾向の多い事例や、特出すべき重要な事項を抜き出す。
教師 ⑤まとめ 	・「ひやり・はっと体験」の多くは、自転車側にも原因がある。 ・その原因を取り除くことにより、事故が避けられる。 ・ルールを知らないことに起因する場合は、【指導事例4交通法規指導⇒p. 16～】の学習シートを利用する。